



—麦は日ましに伸び、さわやかな風は空を渡る—

春が訪れた。

季節の移りかわりがたとえ自然の摂理ではあつても、暖かい春の訪れは、私たちにこの上もない解放感とその欲びを与えてくれる。自然の風物もみずみずしく色めき、とかく屋内にこもりがちであつた私たちの体内にも血の躍動がはじまり、明るい戸外へとその気分が誘われる。そして、ほのぼのとした春の陽差しを浴びながら、私たちは思わす手肢の屈伸を始め、閉ざされていた冬のしこりを解きほぐそうとする。

春は、地上の万物に鮮やかな色どりを添えて、新たな逞しい生命をふくませる。この春への衣替えは、私たちの社会にも訪れようとしているのだ。

春のように、明るく温かな社会……

私たちの幸福は、私たち自身の力で築かねばならないだろう。

今年も行われる地方や国の選挙は、そのような私たちの身近な希いを築いてくれる人を選ぶことなのだ。信頼でつなぐその人たちのために、私たちのさゝやかな希いを、清らかな一票に託してあげたいと思う。

春は私たちの約束を待っている。

解説

昭和三十四年度

暫定予算について

……そのあらましと構成……

★ ★ ★

昭和三十三年度さいごの定例県議会は、去る三月二日からおよそ二十日間にわたつて開かれましたが、これに提案された昭和三十三年度、三十四年度あわせて四十六件の議案の中から、昭和三十四年度の暫定予算について、これから説明いたします。

先づ、昭和三十四年度の予算がどうして四月から七月までのわずか四ヶ月分の暫定予算となつたかを申しあげますと、寺本知事は、県民の皆さんにお約束したいろいろなことがらを実現するためには、これからその具体的な方策を検討しなければならぬのですが、まだどうしてもその時間的な余裕が見出せなかつたこと、次に、国が考えている地方税財政制度の改正についての詳しい内容が明らかでないために、県の財政支出に充てるお金の出どころの見とおしが困難であること、などの理由からです。

ところで、この四ヶ月分の予算の総額というのは、五十一億四千二百万円です、このうち主なものを取りあげてみますと、雨期前にせひやつておかねばならない森林の害虫駆除や金剛干拓地の排水工事等を重点的にとりあげたほか、梅雨前に施行を必要とする危険な箇所の災害復旧費に四億七千七百万円を計上し、又三十三年度同期に比べて道路の補修費に一千万円をふやして、県費で単独にやれる道路と橋梁の修繕費として八千三百万円を計上しました。

また、四月の県議会議員の選挙と六月に行われる参議院議員の選挙に必要な経費は全額計上したほか、翌年をめざして本県で開催予定の第十五回国民体育大会の審判員や選手の養成を促進するための経費四百三十二万円と、プール建設に伴うレッド地区の公園整備に、とりあえず百万円を計上しました。

次に、教育関係では、学級編成を中心に教職員の定数などを決定する基本方針を樹て、これに副つた暫定予算を編成しました。

つまり、学級編成では、三十三年度は小学校六十人、中学校五十五人で編成していたのを、三十四年度では国の暫定基準に従つて、小学校五十八人、中学校五十四人として編成し、学級の緩和をはかつたほか、精神薄弱児関係の特殊学級を小学校では六学級、中学校では三学級を増設するとともに八代東高校についても普通科を一学級ふやすことにしています。

また、昨暮りに竣工した図書館は利用者が大へん多くよここばしい限りですが、これからさらに利用者の便宜をはかるために、夜間九時までの開館を計画して、その必要な経費を計上してあります。

最後に、警察関係を説明しますと、まづ、警察官の定員を二十名ふやした外、駐在所に勤務する警察官の配偶者に対して、警察協力謝金を支給することにし、さらに、新しい事業として、警察学校に警察機動隊を設置する経費を三百二十万円計上してあります。

以上が暫定予算の主な点ですが、来る六月の定例県議会に提案を予定している年間予算の編成に当つては、県政全般について再検討を加えながら困難な県財政の事情のなかで知事の公約実現のために、いつその努力が注がれてゆくわけです。

(財政課)